

木山さん：28名の従業員がおり、そのうち正社員は20名です。37歳の私が年齢的には上から4番目で、平均年齢は31歳。ここ数年は毎年3名ほど採

り、面白さにハマりました。3年間、現場の仕事を担当した後、新規事業の開拓や技術的な折衝を引き継ぎながら、会社経営にも携わるようになりました。正式に社長職に就いたのは2006年です。

——木山さんにとって、モノづくりの面白さとは何でしょうか。

木山：まず自分が理想とする形にするために、そのプロセスをイメージします。そして工作機械を操作し、製品を完成させるわけですが、うまく出来たときの満足感は何とも言えません。ただし、いつも上手くいくとは限りません。過去の資料、インターネット、書籍などで情報を調べたり、先輩からアドバイスを受けたりしながら、試行錯誤してプロセスを考えます。それが上手くいったときには、本当に感動しますよ。

——社員構成について教えてください。

木山：28名の従業員がおり、そのうち正社員は20名です。37歳の私が年齢的には上から4番目で、平均年齢は31歳。ここ数年は毎年3名ほど採



会社ポスター

＜ 全社員で企業文化を作る喜びを分かち合う ＞

# ステンレスに特化して国際競争に打ち勝つ



ステンレスなど難削材の切削加工に特化して業績を伸ばす木山製作所。全社員が一緒になって経営理念を作り上げ、モノづくりの喜びを共有しながら技術と能力の向上を図っている。社長の木山智英に、木山製作所の強さ、今後のビジョンについて聞いた。

## 木山製作所 代表取締役 木山智英

きやま ともひで



Profile

1969年、東京都生まれ。専修大学文学部卒業後、インテリア・デザイン会社に入社して設計施工に携わる。1994年に株式会社木山製作所に入社し、現場で切削加工の仕事で3年経験。その後、営業を担当しながら経営に携わり、2006年に代表取締役役に就任。

——ステンレスなら木山に、という信頼を得る

——最初に事業内容をお聞かせください。

木山：NC旋盤やマシニングセンタを使って、ステンレスなど難削材の切削加工を行っています。主にステンレスを扱っており、その割合は8〜9割。その他にチタンなどの特殊合金類の加工も行っています。

——どのような製品に使用される部品を作っているのですか。

木山：流体を流す配管用のステンレス部品がメインです。食品プラントや化学プラント向けの部品が多く、他には液晶や半導体の生産工場、自動車関連部品など幅広い分野で用いられています。

——ステンレス製品を扱う理由は何ですか。

木山：ステンレス製品のニーズが高まっていることにあります。ステンレスはほぼ100%リサイクルが可能で環境負荷が低いというメリットがあり、代替金属として注目されています。特にヨーロッパにおいては環境規制が厳しく、ステンレスのニーズがとて高くなっているのです。

——御社の強みを教えてください。

木山：ステンレスや難削材などの切削加工に関する高度な技術を持っており、素材自体の知識やマーケット情報に詳しいことが強みの一つでしょう。また、同様の加工をしている会社には家族経営のところが多いのですが、我々は28名という規模で進めており、その組織力が強みになっています。

——その強みをどのように顧客に伝えているのですか。

木山：ステンレスに関わるニュースや技術知識などをお客さんにメールでお知らせしています。ステンレスのマーケット状況、ステンレスや特殊合金類の特性や、それに関連する新技術に関する情報などです。ブログでも情報を公開しており、現在の仕事内容や新技術などをわかりやすく紹介しています。そのようなことを進めるうちに、ステンレスなら木山に、という信頼を得られるようになりました。

モノづくりの面白さを感じた

——木山さんが社長になった経緯を教えてください。

木山：若い頃は社長を継ぐ気持ちはありませんでしたが、現場で仕事に携わっているうちに、モノづく

用しています。できれば人材をゼロから育てて、独自の企業文化を作りたいと考えています。

——独自の企業文化を作るために取り組んでいることはありますか。

木山：私が社長になってから、経営理念の成文化を全員参加で行いました。幹部社員が中心になってゼロから始め、全社員から意見を汲み上げて経営理念をまとめました。私は文章をまとめるぐらいでした。何事もなるべく全員参加で行い、情報を共有化するようにしています。

社員教育で豊かな企業文化を育む

——研修にも力を入れているそうですね。

木山：はい。技術研修や人材育成のための勉強会をやっています。先日まで毎週、4ヶ月間かけて、論理的な戦略思考を養うための勉強会を開催しました。自主参加だったので、多くの社員が参加してくれました。

——研修の成果はありましたか。

木山：研修自体は、すぐに目に見える結果が出るものではありません。結果は数年後に現れればいいと思っています。意外な効果といえば、参加者の半数が隔週で交互に勉強会に出席するスケジュールだったのですが、仕事を補い合うことで、お互いの仕事への理解が深まったことです。

——人材についての考え方を聞かせてください。

木山：国際競争に勝っていくために必要なのは、設備ではなく社員の高い能力です。工作機械というのは、人のイメージを投影し具現化するた

めの道具です。つまり、人と工作機械とのコラボレーションによって「価値」という結果が生まれるわけです。

従って、工作機械を扱う能力に長けた人材を育てていくこと以上に、豊かな創造力や独自性を持った人材を育てることが、国際競争力を高くすることだと考えています。そのような人材を育てるベースには、豊かな企業文化が必要であり、そのためには社員教育が重要だと考えています。

——御社ではどのような人材を必要としているのですか。

木山：感受性が豊かで、コミュニケーション能力の高い人を求めています。社会情勢や文化的な流れを感じ取る感受性を持ち、お客さんと先輩とうまくコミュニケーションできる人です。価値が多様化していますから、高いコミュニケーション能力を発揮して、いろいろなモノを吸収できる人材を必要としています。

徹底的に加工技術を突き詰める

——最後に今後のビジョンを教えてください。

木山：ステンレスなど難削材のニーズに対応して、その加工技術を突き詰めていきます。量産品の生産効率を高めていきますし、複雑な加工に取り組みするために技術レベルを高めます。徹底的に技術力を向上して、足場を固めていくのが近々の目標です。マーケットや財務状況を見ながら、複雑な加工に挑戦していきたいと思っています。そのため、2008年5月には新工場に引っ越しして、さらに複雑な加工ができる設備を導入する予定です。お客

※NC [Numerical Control]: 「数値制御」の略。職人の経験や勘に依存していた工作機械の操作を、数値によって自動制御すること。その仕様の機械をNC工作機械という。

※マシニングセンター [machining center]: 複合的な加工を行なう工作機械の一種。おもに切削加工を目的としていて、多数の切削工具を有し、コンピュータ数値制御により加工工具の交換、機械加工を自動で行う。



1 29台のNC旋盤が並ぶ工場内。2 量産品の生産効率も高い。3 仕事は楽しく楽しく

さんが満足していただき、それらが世の中の役に立つことで、喜びを感じることもできます。製品の質を上げながら、そのようなサイクルを地道に続けることで、顧客満足と社員の充足感を向上させていきます。最終的には、全社員が木山製作所で働くことを通じて、社会貢献している満足感を得てもらいたいと思っています。

The Management Data File  
経営者データファイル

お名前	木山 智英	乗っている車	RX-8
生年月日	1969年11月2日	オススメ本	「サル学の現在」 「ブルーオーシャン戦略」
出身	東京都	家族	妻、子供
身長	179cm	今までに訪れた国	8カ国
体重	67kg	座右の銘	創造する引算
平均睡眠時間	6時間	講読雑誌	「BRUTUS」 「esquire」
平均起床時間	午前6時	尊敬する人	茂木健一郎、アインシュタイン
趣味	音楽活動 (ベースプレーヤーとして、都内ライブハウスで活動中)	今日の財布の中身	67,000円
		好きな食べ物	旅館の朝食のような和食
		嫌いな食べ物	マトン

会社概要  
株式会社 木山製作所

本社所在地 ● 千葉県松戸市高塚新田405-10  
設立 ● 1969年5月 資本金 ● 2,000万円  
事業内容 ● ステンレス・特殊合金類など難削材の切削加工 従業員数 ● 28名  
URL ● <http://kiyamaseisakusyo.co.jp/>

就職情報はコチラ